

特攻とは何か。原爆とはなにか。 戦争について、映画・ドキュメンタリー 作品の上映会



日時 10月31日(土) 13:30～15:10 4F 第1学習室

北緯15°のデュオ

若くして命を落とした特攻隊員のことを深く知るため、俳優の川谷拓三はフィリピンを訪れた。戦争で死んだ甥の墓参りをするために来たという日本人老女と知り合った川谷は、特攻隊による自爆攻撃が初めて行われたマバラカットへ向かう。老女の目的は甥の墓参りではなく、死んだ恋人の墓参りだった。二人の旅はさらに、セブそしてレイテ島へと続いていくのだったが…。

日時 10月31日(土) 15:20～16:20 4F 第1学習室

二重被爆～七人の証言～

1945年8月、米国は、「戦争終結のため」という美名のもと、人間の肉体と精神の尊厳を破壊しつつ原子爆弾を広島・長崎の2つの都市に投下した。わずか3日間、75時間、直線距離にして約300キロ。「二重被爆」の事実は歴史の中に埋もれたまま、61年間国は聞き取り調査すらしてこなかった。7人の証言者が世界に伝える。

日時 11月14日(土) 13:30～15:10 4F 第1学習室

サクラ花 桜花最後の特攻

終戦直前の昭和20年6月22日、茨城県の神之池基地から激戦地・沖縄へ向け、桜花を搭載した大型爆撃機が飛び立つ。新人兵士の尾崎ら8人の乗員たちは、敵機からの猛攻で一人また一人と命を落としながらも、機長・穂積の機転や団結力でどうにか沖縄へとたどり着く。そして17歳の少年・沖田が桜花での出撃を命じられるが…。

日時 11月14日(土) 15:20～16:30 4F 第1学習室

二重被爆～語り部 山口彊の遺言～

山口彊から世界の人々への遺言。核は人間の社会にあってはならない。核は平和的に利用するといっても、技術的にも倫理的にも問題があり、事故は止まらない。核がなくならないなら、人類は滅亡に近づく。

※ 申込みはありません。座席は20名程度 1回のみ参加、途中参加・退席自由
上映作品はすべて上映許可作品です。

主催 川崎市教育委員会

川崎市教育文化会館：〒210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-3
電話：044-233-6361 FAX：044-244-2347



川崎市教育文化会館へのアクセス

徒歩 : JR川崎駅東口から市役所通り徒歩15分

京急川崎駅から市役所通り徒歩13分

バス : JR川崎駅東口、12番・14番・15番・16番乗り場から乗車、「カルッツかわさき・富士見公園」下車
ただし特急や急行は止まりませんのでご注意ください。

川崎市教育文化会館には受講者用駐車場がありません。
公共交通機関もしくは近隣の有料駐車場をご利用ください。